

養鰻池跡地に生育するハス

ふじのくに地球環境史ミュージアム 准教授

早川 宗志

前回の「標本は語る」では、ふじのくに地球環境史ミュージアムの新常設展示「ふじのくにの食」について紹介した(早川 2025)。「ふじのくにの食」では、ニホンウナギの剥製を展示している(図-1)。本稿では、浜名湖においてニホンウナギの養殖が盛んであった経緯と養鰻池の跡地に生育するハスおよびアマゾンチカガミについて紹介したい。

ニホンウナギと浜名湖

静岡県浜松市はうなぎの名産地として知られている。例えば、歌川広重「東海道五十三図会 三十二 荒井 名ぶつ蒲焼」には、東海道荒井宿(現・湖西市新居町新居)の美人画にうなぎの蒲焼が描かれている。この錦絵が描かれた嘉永末年(1854年)には既にうなぎが浜名湖の名物とされ、蒲焼きとして賞味されていたことがみとれる。浜名湖は本格的なうなぎ養殖発祥の地でもあり、1900年に浜松市の舞阪で養鰻場を作り始めたのが最初である。

歴史をひも解くと、かつての浜名湖は淡水の湖であり、海とはつながっていなかった。しかし、明応7(1498)年の大地震で、湖と海を隔てる陸地が崩れ去り、海水と淡水が混じり合う日本最大の汽水湖となった。シラスウナギは海から川へと遡上する前に汽水域で過ごす。そのため、汽水となった

浜名湖や天竜川河口ではうなぎの稚魚シラスウナギが大量に捕れ、浜名湖がうなぎの名産地となる環境を支えている。このような環境条件にも恵まれ、静岡県は1983年まで養殖生産量が日本一位であったが、農林水産省統計部『内水面漁業生産統計調査(概数値)』によれば、現在では4位(12.5%)となっている。

養鰻池跡地のハス

静岡県浜松市米津の浜の浜堤周辺では陸地に造った養殖池である堀池と呼ばれるタイプの養鰻池が多く存在している。この養鰻池の跡地にはハスが植えられていたり(図-2)、放棄されてヨシやハスなどの水生植物や湿生植物が生育していたりする。その様子は、堀池と並走する新幹線に乗車しながらみることできる。

ハス田の雑草

静岡県では小規模ながらハスの栽培がなされており、静岡市葵区の麻機遊水池の周辺では蓮根が細長いことが特徴のあさはた蓮根が栽培されている。ハスは除草剤に劇的に弱いことから、ハス田で発生した雑草は手取りで除草をする必要がある(早川・内野 2020)。著者の観察では、蓮根の収穫方



図-1 ニホンウナギの剥製

図-2 養鰻池跡地のハス
(静岡県浜松市中央区馬郡町, 2021年7月27日)



図-3 ハス田の雑草
(静岡県湖西市, 2021年7月27日)



図-4 ハス田において手取り除草された部分とケイヌビエが繁茂する部分
(静岡県静岡市葵区, 2021年6月22日)



図-5 アマゾンチカガミ
(静岡県静岡市駿河区小鹿 ニツ池, 2023年8月2日, 栗山由佳子撮影)

法が水圧掘りではなく鍬掘りされる地域において、ハス田内の雑草発生が著しく顕著な事例がある(図-3, 図-4)。そのため、鍬掘りで収穫する蓮根農家は雑草防除のため春の入水後に極めて多くの手取り除草の労を負うことになる。なお、ハス田で登録されている除草剤は藻類を除草するときに用いるACN剤(モゲトンジャンボ, モゲトン粒剤)のみである。

ハス田の雑草相の詳細に関しては、また機会を改めて紹介したい。

養鰻池のアマゾンチカガミ

放棄された養鰻池にはアマゾンチカガミなどの外来水草も生育している(早川ほか 印刷中)。アマゾンチカガミは南米原産の浮葉性植物であり、観賞用植物として流通しているが各地で逸出し、福島県および新潟県以南の30都府県に帰化している(角野2014; 福岡ほか2021; 山ノ内2021; 山ノ内ほか2021; 山崎・田金2021)。葉身は円形で長さ、幅ともに15-40mm, 裏面は厚さ5mm程度にまで膨れて浮囊となる(角野2014)。静岡県では数か所でも移出しており(図-5)、冬でも完全に枯死することはなく越冬する。

謝辞

本調査にご協力いただいた杉野孝雄氏および栗山由佳子氏に感謝します。

参考文献

- 福岡豪ほか 2021. 熊本県江津湖で新たに記録された外来水草2種: アマゾンチカガミとラージパールグラス. 水草研究会誌 112, 33-38.
- 早川宗志 2025. 新常設展示室「ふじのくにの食」の展示制作. 植調 60(2), 14-15.
- 早川宗志・内野彰 2020. ミズアオイとコナギの学名と遺伝的多様性. 植調 54(6), 18-23.
- 早川宗志ほか 印刷中. 静岡県新産の外来水草類. 水草研究会誌 118, 31-38.
- 角野康郎 2014. 日本の水草. 文一総合出版.
- 山ノ内崇志 2021. 外来水生植物アマゾンチカガミの北限生育地(福島県福島市)における生育環境および形態的特徴. 水草研究会誌 112, 1-11.
- 山ノ内崇志ほか 2021. 水草研究会メーリングリストを通じた市民科学的手法によるアマゾンチカガミ野生化記録の集約. 水草研究会誌 111, 79-96.
- 山崎海都・田金秀一郎 2021. 鹿児島県の外来植物V: アマゾンチカガミ *Limnobium laevigatum* (Humb. et Bonpl. ex Willd.) Heine. Nature of Kagoshima 47, 245-248.